

# 冒険教育プログラム体験が大学生の集団規範に与える影響

富田 由以 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 黒澤 毅

キーワード：冒険教育プログラム, 集団規範, 大学生

## 1. 序論

文部科学省<sup>2)</sup>は青少年の野外教育の充実について、小グループでの生活は、自分のことは自分です、仲間とよく相談し協力する、といった行動が求められる。このような活動の実践は青少年の自主性や協調性、社会性の育成に大いに役立つと述べている。一定の規範が存在しなければ達成することは難しいキャンプでは、1人の力では達成困難な課題を、小集団で解決する活動が含まれている。冒険教育プログラムでは困難な状況が設定され、仲間との協力が必要な状況でどのようにグループの一員として関わるかが試される。そこで本研究は、冒険教育プログラム体験が大学生の集団規範の変化に与える影響を明らかにし、その要因となった体験について検討することを目的とする。

## 2. 研究方法

【対象者】平成24年9月24日～30日にB大学野外スポーツコース所属学生を対象に実施された専門実習に参加した3年生16名を対象とした。実習の主なプログラム内容は縦走登山やソロ活動、カヤック、オーバーナイトハイクであった。

【調査用紙】集団規範について、「運動部の集団規範尺度」<sup>1)</sup>と「大学運動部の新入部員に対して求められる集団規範尺度」<sup>3)</sup>を参考に、6因子からなる調査用紙を作成し、実習終了3週間後に調査を行った。また、実習中の集団規範を測定するために、筆者が独自に作成したふりかえりシートを毎日の全体ミーティング後に行った。

## 3. 結果と考察

1) 実習中の集団規範の変化について因子ごとの割合を図1に示す。

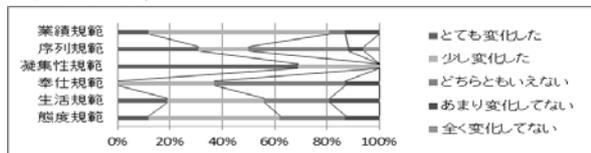


図1 集団規範に関する変化の割合

集団規範を構成する6つの因子のうち、奉仕規範因子を除く5つの因子で変化があったと答えた割合が高かった。特に凝集性規範に大きな変化が見られ、実習を通じて仲間との繋がりがとても深いものになった結果であると考えられる。変化したと感じた割合が最も少ない奉仕規範については、もともと得点が高く、実習において変化することはなかったと考える。

2) 実習終了3週間後に、実習中の集団規範の変化について調査した結果をカテゴリーに分類し、さらに

集団規範因子に基づいて『冒険教育プログラム体験における大学生の集団規範の変化』の概念図を作成した。概念図を図2に示し、以下に説明を述べる。

実習前は何かかなという【考えの甘さ】の中で活動を行っていたが、【仲間の存在】や、【自信や達成感】の獲得により、気持ちは自然と変化した。この体験は[先読みしながら動く]、[妥協しない]など、自らの目標設定にも繋がり、この事は集団に影響を与える。グループとしての【仲間意識の高まり】、【行動面の高まり】は、凝集性規範、業績規範、序列規範にも影響を及ぼした。これらの背景には、冒険教育プログラムに特徴的な[限界への挑戦]、[失敗体験]が関係していると考えられる。【自分へのふがいなさ】、仲間との【意見の食い違い】による失敗体験は、態度規範、凝集性規範を低下させた。しかし、その失敗を乗り越えるための【コミュニケーションの重要性】の理解や、【積極的思考】は、凝集性規範、態度規範、業績規範に影響を与えた。実習後の私生活が変化した学生は【深く細かく考える】ことの重要性、プログラム後に味わう達成感や成功感から見られる【自信の獲得や向上心】、共に乗り越えた【仲間の存在】を感じていた。このことから私生活にも、凝集性規範、態度規範が影響を及ぼしていると考えられる。

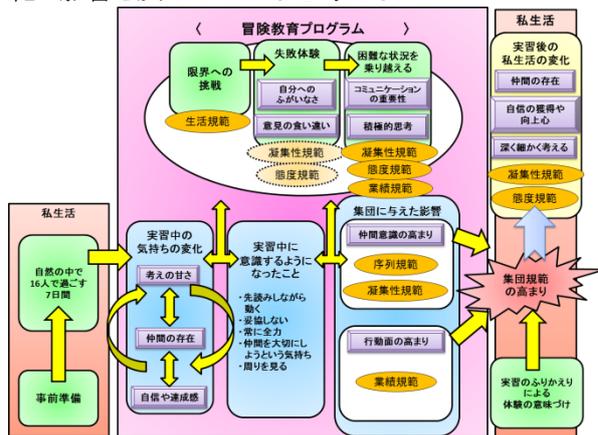


図2 集団規範に関する変化の割合

## 4. まとめ

冒険教育プログラムに参加した大学生の集団規範のうち「凝集性規範」に変化が見られた。また実習終了3週間後も冒険教育プログラム体験の集団規範に関する効果が見られた。

### 【参考・引用文献】

- 1) 金明秀 (1992) : 運動部における集団規範の研究 スポーツ心理学研究 第19巻1号 pp11-17.
- 2) 文部科学省「青少年の野外教育の振興に関する調査研究会議」(最終アクセス日 20012年12月3日)  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/sports/003/toushin/960701.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/sports/003/toushin/960701.htm))
- 3) 柴沼甲子郎 (2009) : 大学運動部における集団規範のイニシエーション機能 筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻修士論文